

講義科目 : 国際経済論	単位数 : 2
担当 : 三瀬 貴弘	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

<内容>

- ・国際経済論は、国と国の間の経済的関係（ヒト、モノ、カネの移動）を勉強する学問である。講義では、①貿易・移民・多国籍企業・国際金融の基礎知識、②各国経済事情、③国際経済に関する基礎理論、④アメリカの軍事作戦が国際経済に与えた影響、に目を配りつつ、最終的には「IMF=ドル体制」の成立と崩壊、アメリカを中心とした国際的な資金循環の実態と意義・限界を、「戦後資本主義世界体制の危機」と位置付けて講義する。

<方法>

- ・講義を3つのパートに分ける（映像資料を適宜用いる）
 - ①「頭の体操」；様々な面白おかしい素材（ゲーム、漫画、料理、観光案内など）・問題に取り組み、国際経済の基礎知識を習得する。
 - ②「本講義」；文献①で「戦後資本主義世界体制の危機」の経緯、文献②で国際経済の諸理論を、配布レジュメを用いて講義する。
 - ③「感想記入」；知識の定着のため①②で理解したことや質問などを書く。
- ・講義で退屈・居眠りしないよう(A)(B)の仕掛けを設ける。
 - (A)「速記バトル」；制限時間内での私と速記のスピードを競う。
 - (B)「○突クイズ」；講義中に突然クイズを出す。

<到達目標>

- ・国際経済の基礎知識・理論を習得。現在の国際経済体制の実情を理解する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（国際経済論とはどのような学問か）
- 第2回 国際経済論 総論①（タイ運河、コロンブス交換、アジアの勃興）
- 第3回 国際経済論 総論②（実需と投機、日経平均株価、LTCMの破たん）
- 第4回 リーマンショックの視角①（サブプライムローン、債権の証券化）
- 第5回 リーマンショックの視角②（アジア危機、グローバリゼーション論）
- 第6回 リーマンショックの視角③（戦後資本主義世界体制の危機）
- 第7回 総余剰分析（タックスヘイブン、BEPS、総余剰分析、ピグー税）
- 第8回 リカード、ヘクシャーオリーオン定理、マンデルフレミングモデル
- 第9回 競争段階の理論（設備投資の集中的展開、I部門の不均等的発展）
- 第10回 独占段階の理論（独占利潤、停滞基調と間欠的発展）
- 第11回 軍事と経済（ディグラス、ベトナム戦争、超先端軍需産業）
- 第12回 IMF=ドル体制の構築（基軸通貨、アメリカの国際収支の構造）
- 第13回 IMF=ドル体制の崩壊（ドル危機、ニクソンショック）
- 第14回 薄氷の帝国アメリカ（金融自由化、対テロ戦争、危うい循環）
- 第15回 まとめ（戦後資本主義世界体制とは、国際経済論の基礎知識の復習）

教材・テキスト・参考文献等

- ・参考文献（購入不要）
 - ①延近充『薄氷の帝国アメリカ』お茶の水書房、2012年。
 - ②伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日経新聞社；改定3版、2005年。

成績評価方法

- ・「課題レポート100%」で評価。出席点などを加算要素とする（3%まで）

その他

- ・メリハリがある、面白くて楽しい講義をします。学生を指名することはありませんので、気軽に受講してください。授業が難しい場合は要復習です。講義内容については、受講生の学習の進捗度などによって、随時調整します。